

おお、ロミオ！あなたはどうしてロミオなの？

takashy57

小学校の読書感想文は、多くの子供たちにとって苦痛なものであろう。少なくとも、私はそうだった。何せ、本を一冊読んだ上で文章を書くのだから、他の課題に比べて数倍の時間がかかる。あの頃、まだ小学生だった私が、学校の読書感想文の宿題のために選んだ本は「ロミオとジュリエット」だった。もちろん、内容を知っていたわけではなく、とても有名なお話だからというだけの理由で選んだのだ。小学生の私はそれまで悲劇など読んだことも無く、この本のことも中世の甘ったるいラブストーリーを描いただけのものだろうと決めつけていた。もしあの日、あの時、あの場所で、この本に出会っていなければ、私は読書の面白さを知らないままであったかもしれない。

さて、ロミオとジュリエットの舞台は、14世紀のイタリア。恋に落ちた二人は、それを許さじとする名家同士の不毛な争いへと巻き込まれていく。運命に翻弄された二人の悲劇的な死によって、いがみ合っていた両家は悔い改め、ついに和解する。……あなたはこれを、ありがちで平凡なストーリーだと思われるだろうか？

私はそれまで、ただ主人公が死ぬだけの映画やアニメなら、いくらでも見ていた。そして見終わった後には、すべからく「あー、かわいそうだったね」と他人事のように感じるのだった。エンターテインメントである物語で、悲しい結末を押しつけて、一体何の意味があるのだろうと思っていた。しかし、この本は違った。物語の結末は確かに悲劇だが、“意味のある悲劇”である。ただの悲劇、ただのハッピーエンドに比べて、はるかに強力なインパクトを与え、読んだものの脳裏に“何か”を焼き付ける。

ロミオとジュリエットがシェイクスピアの四大悲劇に入っていない理由は、あの時の自分には分らなかった。たが、ハムレットやマクベスを読んだ今でなら分る。ロミオとジュリエットは、他のシェイクスピアの悲劇と違い、欲望や復讐心かられた愚かな人間の破滅する姿を描いているわけではない。欲に惑わされ、王を殺し権力を奪い取った王の弟と王の妻。それに対し復讐を誓った狂気の王子ハムレット。人間の持つ救いの無い汚さ、黒さ、愚かさを徹底的に描いたハムレットに対し、ロミオとジュリエットは人間の美しい部分を描いている。悲劇的とはいえ二人は愛し合ったまま死に、その結果、不仲であった家同士は和解する。主人公二人の活躍で、周囲を良い方向へ変えたという意味では、この物語はハッピーエンドと言っても過言ではない。しかし純粋無垢で感受性豊かな小学生には、それでも十分に悲劇だった。そしてもしも、このストーリーが誰もが幸せになるハッピーエンドだったならば、私の心にはきっと“何も”残らなかったに違いない。

嫌々書いていた学校の読書感想文に、ただ「おもしろかった」や「かわいそうだった」でなく、真剣に自分の思いを書きつづったのは、この時が生まれて初めてだった。人生の初期に、あのような本に出会えたことは、私にとって得難き幸運であり、まさに“人生を変えた一冊”であった。